

「現地を訪問して想うこと」福島編

藤田 和育 (1969・理工)

「行動せずして!得るものなし!」

昨年の岩手県「東北応援ツアー」に続けて、今年も去る11月18日から1泊の2014年立命館大学校友会東日本大震災復興支援事業の「東北応援ツアー」に2度目の参加をさせていただきました。

今回は大震災による東京電力福島第1原発事故で放射能や放射線から甚大な被害を被って今もなお、除染で苦勞されている避難解除2番目の町の川内村遠藤雄幸村長様から震災直後から現在までの復旧・復興体験を映像交えて解り易くお話しして下さいました。川内村は近隣の町村が市町村合併等で地名も馴染み薄くなり震災被害が風化することにより復興への遅れを懸念されることから故郷の川内村と言う地名を守り避難した村民が安心して帰還出来るように村復興へ数多く事業を推進して環境を整備推進されていることに感銘した次第です。特に、川内村は震災前の経済圏は広域の町村で構成されていましたが、まだ未だに避難解除に目途が立たない近隣町村が有る為に独自の生活圏を築くためにスーパーマーケットの建設をはじめ農業への挑戦で「川内高原農産物栽培工場」を昨年3月に完成し風評被害払拭にも努力されていました。

この工場を見学した校友は、工場で採れたレタスの種類の野菜を1つ100円で購入されていました。



勿論私も買って帰りサラダで食べた次第です。避難地域では家畜など野生化してその被害も今後の課題だと言われていました。この後、三春デコ屋敷で三春駒の絵付けを彦治民芸の9代目当主橋本彦治様の指導で体験しました。なお、宿泊の「ホテル華の湯」では校友である福島県の飯塚俊二企業局長様から福島県での

震災による津波災害より福島第一原発事故からの放射能関連被害からの風評被害が全体の一定比率で拒否反応を示されることへの払拭することの難しさが復興への大きな課題であることを解り易く説明され、この地域で復興事業の中核で母校の後輩が汗を流していることにほっと嬉しさを感じました。

あの生々しい津波被害の起きる様子をテレビ中継やニュースでの報道では承知していますが「百聞は一見に如かず」の現地を拝見して、見えない放射能被害を目の当たりに見てこの現実がまだまだ続くと思うと小さい力ですが私自身息長い応援を行こうと再認識した旅でした。

翌日は紅葉綺麗な裏磐梯・五色沼を散策して帰路に…この素敵な企画をして頂きました地元の福島県校友会方々にありがとうございました。

福島に「食べて、飲んで、旅をして・・・皆さん応援しましょう!!」 終